

そもそも SDGs（えすでーじーず）って何？

さすていなぶる
Sustainable
持続可能な

でべろぶめんと
Development
開発

こーるす
Goals
目標

持続可能な世界の実現を目指して、2030年までに達成する17の目標を定めたもので、2015年9月に国連サミットで採択されました。

持続可能な世界って？

持続可能な開発とは、将来の世代のための環境や資源を壊さずに、今の生活をよりよい状態にすることです。今ある資源をすべて使ってしまう、未来の人々に何も残さない開発は、持続可能ではありません。持続可能な開発とは、共に成長し、他者を思いやり、環境を大切にすることの取り組みです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



貧しくて、ご飯を食べることができない、学べる機会がない、病院にいけないなど、困っている人がいない、みんなが幸せな世界にしよう！



みんなが、栄養あるごはんが食べられて、作物を安心して育てられる環境をつくっていこう！



赤ちゃんからお年寄りまで、病気になったら、お医者さんに行けて、健康に安心して暮らせる社会を目指そう！



みんなが、ちゃんと学校へ行けて、学びたいことを自由に学べる世界をつくらう！



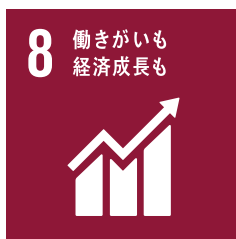
女の子だって、男の子とおなじように暮らして行けて、みんながなりたい自分になれる社会を目指そう！



世界では24億人、つまり3人に1人がトイレのない生活をしている。みんながきれいな水とトイレのある清潔な暮らしができる社会を目指そう！



世界のみんなが、電気やガスなどのエネルギーをいつでも安心して使える社会にしていこう！



みんなが、自分のやりたい仕事を指せて、豊かな暮らしのために安心して働ける世界を目指そう！



世界のみんなが、今より豊かな生活ができるように、役に立つ技術や物を生み出せる社会にしよう！



不平等をなくし、みんなが安心して自分らしく暮らせる世界にしよう！



災害に負けない強い街、みんなが安心して暮らせる街をつくろう！



みんなが豊かな暮らしをするために物をつくること、物をつかうことに責任をもっていこう！



人間の活動のせいで地球の気候が不安定になり、災害がふえている。今、自分が何をできるかを考えよう！



海をみんなでキレイにし、海の生き物たちを守ろう！



陸に生きる動物たちの命をまもり、木や森をたいせつにしよう！自然を守るためにも、身近な物をたいせつにしよう！



平和でみんなが参加できる社会をつくり、すべての人がルールを守って、安心して暮らせる社会をつくらう！



世界中のみんながよりよい環境で生きられるように、みんなで一緒に考えてがんばっていこう！



2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

日本は、SDGsをどれくらい達成しているか？

緑が達成、赤にいくほど未達成（赤信号）です！



日本の達成状況は157カ国中、11位（OECD35カ国中でも11位）。G7の中ではドイツ、フランスについて3番目。

出典：http://www.sdgindex.org/assets/files/2017/2017-SDG-Index-and-Dashboards-Report--regions.pdf



話をしてくれまして、内容も難しく、すぐに理解することはできませんでしたが、子どもたち同士で話し合い、教え合っており、自分たちでわかることから少しずつ理解を深めていくと、安朱の自然を守り続けるためには地球環境問題の解決が大切だということがよくわかりました。



先生たちの依頼で、ゲストティーチャーとして安朱小学校を訪れた浅利先生は、写真やグラフなどを示しながら、専門分野である地球環境問題とSDGsについて、子どもたちに話をしてくれまして、内容も難しく、すぐに理解することはできませんでしたが、子どもたち同士で話し合い、教え合っており、自分たちでわかることから少しずつ理解を深めていくと、安朱の自然を守り続けるためには地球環境問題の解決が大切だということがよくわかりました。

SDGsとの出会い

ESD（持続可能な開発のための教育）のなかで環境教育に取り組み安朱小学校（山科区）は、山科疏水沿いの桜や栗の花、安祥寺川のホタル、毘沙門堂の紅葉など、四季折々の自然の美しさに恵まれた地域にありま

SDGsを総合的な学習の時間で活用

京都市立安朱小学校5年生の取組

わたしたちの安朱まもり隊



5年生は、安朱の自然を大切に守りたいという思いをこめて、総合的な学習の時間「わたしたちの安朱まもり隊」に取り組みました。

まず、子どもたちは、自分が好きな校内の自然や生き物を見つけ、1年生に「安朱のたぐさんの素敵」を伝えることからスタートしました。そして、それを残していくための具体的な行動につなげるには、子どもたちの学びをどのように広げ、深めていけばよいかと先生たちは議論していました。そのとき、「びっくり！エコ新聞」(第8号)に掲載された浅利美鈴教授（京都大学地球環境学）の書いたSDGsに関する記事に出会ったのです。

わたしたちの安朱まもり隊

わたしたちの大好きな安朱をこれから先に残していくために、何を考え、どう行動すればよいだろう
ゲストティーチャーを招いて環境に関わる話を聞こう
SDGsの視点から行動できることを考えよう

発見課題
安朱のよいところを見つけよう
～安朱小 自然・生き物調査隊～
身の回りの自然・生き物を見つけよう
自然・生き物について調べよう
調べたことを1年生に伝えよう

提案課題
SDGsの17の視点から、自分たちが行動できることについて実践・交流し、自分の考えを提案しよう
自分が未来に残したい安朱の自然・生き物を守るための取組を提案しよう

熟成課題
わたしたちの考える「安朱の守りたいもの」について、いろいろな人と意見を交流し、自分の考えを練り上げよう
実践したことを発表しよう
地域の人など、いろいろな人から意見をもらいこれまでの考えや活動について見よう

表現課題
安朱まもり隊として、自分が、学年が、学校ができることについて提案し、これからの安朱を見つめよう
安朱まもり隊として行動宣言しよう
これからの安朱の未来につながる行動を続けよう



SDGsマップづくりを体験して、最初はあまり関心がなかった子どもたちも、目の色が変わりました。

SDGsマップでわかったこと
次に取り組んだのはSDGsマップづくりです。山科区の会社や、子どもの福祉のために活動している特定非営利法人「山科醒醐こどものひろば」の協力を得て取り組みました。

を見たとき、最初は「6安全な水とトイレを世界中に」のシールを貼って満足していましたが、疎水がどんな思いでつくられたのか、ということに思いを向けて、他に見方はないのか、子どもたち同士で意見を出し合ってみると、「7エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」や、「9産業の技術革新の基礎をつくらう」「11住み続けられる町づくり」も当てはまることに気づきました。このとき役立ったのは、17のゴールを輪状に配置した思考ツールの活用です。これを使うと、一つの見方だけではなく、いろいろな見方や考え方があることが視覚的にとらえられるだけでなく、17のゴールは独立しているのではなく、つながりがあることもよくわかりました。

未来を変える第一歩

友達の意見をよく聞き、自分の考えも話して、根拠を確認しながらシールを貼っていました。

子どもたちの行動宣言



花時計を1ヵ月に1回写真にとり、1年のカレンダーを作る

毘沙門堂・疎水の季節ハイキングマップを作る

正門前の桜のまわりのごみを拾う

野鳥を守るため、鳥がとまりに来る桜の木の根元に、かれ葉（夏は枝）をおく



担任の先生のことば

服部真実 先生

人のつながりの大切さを実感しました

私が大切だと思っているのは、人とのつながりです。SDGsを使った今回の授業では、いろいろな見方ができることを学び、友達の新しい発見や発想におどろいたり、共感したりする経験ができました。普段の授業ではできなかったことで、私自身の勉強にもなりました。

校長先生のことば

加村和美 先生

学びの中からの「気づき」をたいせつに

先生やまわりの大人から言われるのではなく、子どもたちが学びの中から気づいて、安朱の自然を未来に残していきたいという思いを持ち、実生活・実社会へつながる貴重な経験ができたと思います。SDGsを教えてくださった、浅利先生との出会いにも感謝です。

担任の先生のことば

山内真吾 先生

広い視野をもつためのツールだと思います

広い視野で物事を見るというのがどういうことなのか、実感できました。17の具体的な目標を示されたことで「意識」が生まれ、その意識がまた違う意識に広がっていくので、ほんとに貴重な17のゴールなんだなあと感じられたのが、このSDGsの学習だと思います。

浅利先生のことば

浅利美鈴 先生

未来は明るいと感激！

大学生も苦しんでいるSDGsの学習ですが、小学校で、こんなに素晴らしい取組になるとは……未来は明るい！感激しました。普通に暮らしていると、世界が危機的な状況と感ずることはないと思いますが、いつかきっと、この学習が活きると思います。